

平成 30 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272700691		
法人名	医療法人 仁泉会		
事業所名	グループホーム小春びより1号館		
所在地	〒039-1801 三戸郡新郷村大字戸来字金ヶ沢森ノ下24		
自己評価作成日	平成30年9月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階
訪問調査日	平成30年10月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者様それぞれが能力を発揮し、生きがいを持って生活出来るようサポートに努めております。 ・地域住人参加による防災訓練。 ・SGグループによる職員教育の充実。 ・地域住人の積極的雇用。 ・近隣地域(五戸町・三戸町・田子町)との協力体制。 ・しんごうグループ(介護老人保健施設・デイサービス・居宅・グループホーム・有料老人ホーム)による幅広い対応。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

法人内事業所と連携して、幅広い利用者の状態に応じた対応ができる体制をとっている。法人理念のほかに、グループホームとしての理念「地域との交流を図り、家庭的な環境の中でその人らしくありのままに安心して生活できる第2の我が家」を掲げ、職員も理念を理解し、日常のケアに活かしている。日常的に利用者及びご家族からの要望等の把握に努めているとともに、年1回の満足度調査や職員に対する面談なども定期的実施しており、利用者、家族、職員にとっても安心して過ごせるグループホームづくりに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は全職員に周知している。年間の事業計画や行動目標の指針にしている。	法人グループの理念のほかに、グループホームとしての理念「地域との交流を図り、家庭的な環境の中でその人らしくありのままに安心して生活できる第2の我が家」を掲げ、職員も理念を理解し、日常のケアに活かしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	学校・保育園・地域行事参加や慰問・ボランティアの受け入れ等行っている。またゴミ拾い等の地域奉仕作業を行っている。	地域や学校の行事への参加や、法人グループ主催の行事への参加を通して、グループホーム、利用者が地域住民とのふれあいの場として、交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に唯一の介護施設・しんごうグループ（老健・居宅・DS・GH）として介護に関する相談や支援を努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の場では、活動報告や意見交換・地域の情報収集以外に介護の知識に関する勉強会など行っている。聞かれた意見はサービスに反映させるようにしている。	2か月に1回、運営推進会議を開催しており、役場担当者、町内会長、民生委員、利用者家族がメンバーとして参加している。介護の勉強会、避難訓練にも参加していただき、直接、アドバイスを受け、サービスに反映している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターや村厚生グループの担当職員と情報交換行っている。困難事例等の相談をして協力いただいている。	運営推進会議へ出席していただいたり、待機者情報等の提出は、役所の窓口に出向き、担当者と直接会う機会を設けている。また、医療的ケアの必要な利用者等、困難事例などの相談をしたり、良好な関係が築けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成し実践している。どういったケースが身体拘束に該当するかを周知し、日常においても拘束に繋がるケースがないよう配慮している。	外に出たい利用者は、日常のケアの中で対応できており、玄関は施錠していない。身体拘束マニュアルを整備して、研修を実施し、職員に周知している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成し実践している。どういったケースが虐待に該当するかを周知し、日常生活においても虐待に繋がるケースがないよう配慮している。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	虐待や身体拘束廃止とあわせ、高齢者の権利擁護の知識として周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居・退居時、契約内容の改定時の際には重要事項説明書・運営規定と照らし合わせて説明を行い了解を得た上で契約書にサインをいただいている。特に退居に関する条件や退居後の生活については利用者様やご家族様が不安にならないよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等に近況報告とあわせて要望等ないかを伺うよう配慮している。また施設玄関に意見箱を設置している。	苦情受付に関する掲示を玄関にしており、意見箱も設置されている。意見箱にはほとんど意見が入らないが、面会時に家族からの要望等を伺ったり、満足度調査を年1回実施し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホームの職員会議・しんごうグループの勉強会・ISO部会・委員会活動を毎月開催している。それぞれの会議で職員の意見の汲み取りを行っている。	グループホーム内の会議や日常の業務中のほか、職員面接を年に2回(5月、11月ごろ)実施し、その際に意見や提案などを聞く機会を設けている。また、グループ法人の会議にも出席して、職員の意見や提案を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回人事考課・個人面談を行い職員個々の就労環境への要望等の把握に努めている。評価はSGグループ統一の評価基準に照らし合わせて行い、実績に応じ給与・賞与に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営母体による教育計画に沿った定期的な勉強会の開催や資格取得に向けたサポート等で職員の能力向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議への参加。同グループ内のグループホームホーム長同士の交流で情報収集交換行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス提供の前に面談を行い、利用者様の要望の把握に努めている。提供できるサービスについては分かりやすく説明することを心がけ不安のない施設利用に繋がるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス提供の前に面談を行い、ご家族様が必要としている支援内容の把握に努めている。受診の援助等以外にも特養の申請、退居後の生活も含めて相談・助言を行い信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他事業所からの相談を含め、利用者様・ご家族様のニーズに即しているかを基準に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や食事の片付けなど、暮らしの中で出来る事については利用者様の協力を仰ぎ、互いに助け合えるような関係作りに配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診の同行の依頼を行い健康状態や施設での生活等常に利用者様の状況の把握をしていただけるよう努めている。親族等が近隣に住まわれない場合は定期的な連絡で報告を行い安心していただけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との外出支援や親族・友人の訪問等五本印の希望にあわせて支援している。	美容室や理髪店など、入居前からのなじみのお店へ行っている。また、受診の帰りなど、買い物に行き、利用者の希望に沿うように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	提供する活動内容にあわせて人や物の配置を変更する等して他者と協力し合える環境作りに配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次のサービスについて相談・援助しているがサービス終了とともに関係が断たれているのが現状である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いや言動は情報シート・介護記録・申し送りなどにより職員間で共有できおり職員間で話し合い対応している。	利用者の言動は情報シート・介護記録を通して情報共有している。また、リアルタイムで対応が必要な時は、申し送りノートへ記載して、すぐに対応ができるように職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報収集において行っている。入居後も面会時等に近況報告とあわせて、現状の課題と照らし合わせて情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の様子は介護記録・申し送りシート等に記録し、職員間で情報が共有・把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時には基本的に全スタッフが関わっている。ご家族様には過去の暮らしや情報やケアの希望を伺い計画作成に反映させている。介護計画作成後に確認・承諾を得ている。	日常のケアの関りの中で、本人がより良く暮らすため、職員会議などを活用し、課題を探り、全スタッフが関わり、介護計画を作成している。家族の意見も計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子は介護記録・申し送りシート等に記録し、職員間で情報が共有・把握できるよう努めている。情報は介護計画見直しの材料になっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに応じては施設内に留まらず、積極的に行政等に相談し対応しているが、多機能化に繋がっているかは疑問である。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域性から地域資源にやや乏しい面があり、十分に活用できていない部分がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が居る場合は継続して医療的支援が得られるよう支援している。	在宅からのかかりつけ医を受診しており、家族が対応できない場合は、受診の支援を行っている。医療機関との関係も良好で、相談等もできている。家族には受診等の結果を報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設老健・協力病院の看護師・訪問看護師へ相談・報告し、適切な受診や看護に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の居室確保は基本的に2週間を限度としているが、入院時にはご家族様・病院と相談し可能な限り施設での生活が継続できるよう協力していただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化・看取りに関する説明を行っているが実績は無し。終末期に関する意見の聞き取りは行っているが、心身の状態が悪化した場合に改めて聞き取りを行い、こういった対応を望むのか伺う予定。	重度化した場合の説明は、入居時や状態が変化した場合に行っており、家族の意向を確認したり、法人グループの事業所等も含めて関係機関との調整を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED講習への参加や、緊急時対応の勉強会の開催などにより、実践能力の向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、火災避難訓練実施。地域の方々には年に1度『災害協力隊』として協力・参加していただいている。	年に2回、法人グループと一緒に火災訓練を実施している。年に1回は、地域の住民にも参加していただいている。自家発電や食品の備蓄など法人グループ内で共有している。	法人グループとの火災訓練だけでなく、ほかの災害(地震、水害等)時におけるグループホーム独自の防災意識を全職員が身につけることに期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様への声掛けやケアに対し「自分が同じ事をされるとしたら、を念頭に」声の大きさや会話の内容を周りの状況に対し配慮するよう指導している。	利用者への言葉がけなど、特に排せつ時や誘導時などは声のトーンなどに気を付け、羞恥心に配慮するよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の好みに合わせた活動や日課が提供できるよう意向を伺っている。また職員には利用者様が行動の決定を行えるような声掛けをするよう指導している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	通常は施設の日課に沿っての生活が多いが、希望に応じて人員調整を行い外出等の個別ケアに対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回、理容所の来所にて散髪実施している。希望に応じて、いきつけの理容所への外出支援も行う。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的には調理は職員が行っているが、食後の食器まとめを一部利用者様にお手伝いいただいている。	食後の片付けなどを手伝っていただいているが、利用者が重度化しており、手伝いのできる方が減ってきている。食事は、職員と会話し、楽しみながらできている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	SGグループの栄養士作成のメニューにより食事提供している。利用者様の状態に応じてキザミなどの食事形態に配慮している。水分は1日1000ccを目安に摂取していただくよう援助している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後。口腔ケア実施。口腔内の清潔・健康が保たれるよう援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来る限りトイレで排泄していただくよう援助している。本人の排泄パターンにあわせてトイレ介助を行っている。	できるだけトイレでの排泄をしていただくために、利用者一人一人の排泄パターンを把握し、対応している。また、リハビリパンツから布パンツへの移行など、積極的に自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や体操、または医療機関に相談し下剤処方・調整にて利用者様の便秘解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	火・水以外は入浴を実施。自己決定できる利用者様にはご本人の意向により入浴していただいている。入浴時間は午後2時から5時となっている。	入浴は1対1で介助を行っている。入浴を拒否したりする場合は、無理強いせず、日程を変更したり、時間をかけてタイミングを見計らったりして、工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活サイクルが適正となるよう日中の活動量と睡眠時間のバランスを考慮しケアにあっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院からの処方箋にて用法や副作用について確認し、服薬時には確実に飲んでいくか、状態に変化がないか観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の状態や希望にあわせて洗濯物たたみなどの日常業務を手伝っていただいている。また本人の趣味を作品作りに反映させたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望が聞かれた際にはなるべく実現できるよう配慮しているが、人員や時間の関係で即応できない場合もある。	利用者からの外出希望は少ないが、希望があった場合は、人員や時間の関係で即応できない場合もあるが、できるだけ希望に沿うよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大きな金額は基本的には施設預かりとしており、入居時にご本人・ご家族様に説明し了解を得ている。お小遣い程度(数千円程度)は希望時、ご本人の管理に任せている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の意向により実現させている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間からは山の景色が見えており、また季節に合わせたクラブ作品を飾るなどしてその時期の季節が感じられるよう工夫している。	共用のスペースは、季節に応じた装飾がされており、窓からは山の景色が見えて、季節を感じる空間である。光も入り、居心地よく過ごせる場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはそれぞれが過ごせるようソファや畳のスペースがある。家具の配置に配慮して、気の合った利用者様同士が心地よく過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等の持込は少ないが、個室は利用者様が安全で過ごしやすい、動きやすいよう工夫された空間となっている。	私物は少ないが、家族の写真や行事の時の本人の写真などを飾ったりしている。個々の利用者に合わせ、安全に配慮したベッドや家具が配置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや滑り止めマットなどにより、なるべく自立した生活が実現できるよう努めている。		